

令和6年能登半島地震の被害に伴う 被災地支援を通じて

びわこ学園医療福祉センター野洲 生活支援員／豊福 真司



元日に発生しました能登半島地震につきましては、日々TVで被害状況や様子が取り上げられておりますが、びわこ学園にも滋賀県や滋賀県知的ハンディをもつ人の福祉協会（知ハン協）を通して福祉施設への応援派遣の依頼がありました。

そこで、6月に加賀市にある錦城学園という障害者支援施設へ派遣職員として応援に行かせて頂きました。ここでは能登半島の穴水町にある精育園という被災施設から避難されている方達が1棟を借りて3月から避難生活を過ごされており、短い間ですが被災された方々の日常のお手伝いをさせて頂きました。

応援先となる加賀市は、施設や町並みは直接の被災地域では無かったのでニュースで聞くような凄惨な被害の様子を目の当たりにした訳ではありませんでしたし、避難されている利用者様たちは、元々の施設でいつもされていた仕事ができないことから、リビングでテレビを見るなど皆さんでゆったりと過ごされていました。

穏やかな避難生活の中を共に居させて頂きましたが、そこで働いている職員さん達も元々は被災された能登半

『医療的ケア児等学校保育医療福祉連携体制構築に向けた取り組み』 ～開設から2年目を迎えて～

滋賀県重症心身障害児者・医療的ケア児等支援センターこあゆ 相談支援専門員／園田 千鶴



滋賀県重症心身障害児者・医療的ケア児等支援センターこあゆも2年目を迎え、今年度重点的に取り組んでいることのひとつが『医療的ケア児等学校保育医療福祉連携体制構築に向けた取り組み』です。現在、市教育委員会と学校長にこの取り組みについてご理解いただいた学校を対象に『モデル的』に取り組んでいます。

今回は、先天性中枢性低換気症候群の疾患（気管切開術施行、適宜、人工呼吸器管理必要）がある地域の小学校に在籍するAさんのケースをご紹介します。Aさんのバックアッププランのニーズは、『安全にかつ楽しく水泳の授業を実施したい』と学校看護師や教員より挙げられました。そこで、そのニーズに応じたプランを作

成し、主治医の同席のもと学校の水泳の授業を実施しました。小学1、2年生の水泳授業の課題は、『水に慣れること』。他生徒さんは、プールに顔を付けるなどの取り組みをされていました。医師より「Aさんも顔を付けることができないかな」の言葉により、初めて学校のプールに入るだけでなく、水面に顔を付けることにもチャレンジできました。

現時点で、この取り組みに対する公的な特別な予算はなく、制度的な裏付けもありません。しかし、このような「しくみ」が必要です。医療的ケアを必要とする児童の教育保障の課題は多岐多様です。この課題を解決していくためには、教育分野、医療分野、福祉分野などの多職種が、各々の分野の専門性を互いに認め合い、理解し、医療的ケア児やその家族を支える者として、課題だけでなく『喜び』なども含めて共感しながら、共考し、役割分担しながら、具体的に実働していくことが大切です。今後もその繋がりを強化するとともに一役を担えるように取り組んでいきたいと思っております。



